

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月13日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770700678
法人名	社会福祉法人 博光福祉会
事業所名	寿里苑フェリスグループホーム
所在地	河内長野市加賀田885-2 (電話) 0721-62-0700

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 2月 24日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 550円
	夕食	550円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,600円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 1月 31日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.6歳	最低 79歳	最高 88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寿里苑診療所、寺元記念病院、岡記念病院、光山歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営し、老人保健施設、デイサービスセンター等に併設されたグループホームで9名が暮らしています。「皆様の立場に立ち、考え、話し合いを持ち、大切な家族の一員であることをお約束します。」との理念を掲げて、住み慣れた街でゆったりと過ごしてもらえよう地域に密着したホームを目指しています。リビングや居室からも開かれた眺望で山々や桜並木がみられ、季節の移り変わりを楽しむことができます。職員の異動が少なく、穏やかで安定した生活が提供されています。ボランティアと一緒に編み物をしたり書道をしたり、畳スペースも配置され、心豊かに過ごせる工夫があります。愛犬「マロ」もホームの一員としてリビングで暮らしています。医療面では併設診療所の医師や看護師の支援が受けられ、夜間でも安心感が得られています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	外部評価結果については職員に報告し、具体的な検討を行い、改善に向け取り組んでいます。改善項目の災害対策の備蓄については、改善に取り組む現在では確保しています。運営推進会議の開催回数については市との見解の相違もありますが、市と話し合うなど改善に向けての姿勢が見られます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については各職員も用紙に書き込み、検討会を開いて自分たちのこととして意義を理解するよう取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規定を作成しています。また、家族・地域代表者・地域包括支援センターの担当者が参加し、会議で得た意見を地域とのかかわりやサービス向上に活かせるように努めています。開催の回数は市の見解もあって年6回の規定を満たしていませんでした。市の担当者とは情報交換や疑問に答えてもらうという形で日頃から交流を図り、事業の適正な運営やサービスの向上に取り組んでいます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「ローズマリー通信」を毎月写真入りで発行し、納涼大会の様子や敬老会、また日常の暮らしぶりを伝えています。法人が年3回発行している「フェリスの種」新聞にもグループホームの欄があり、日頃の様子を伝えています。季節に合わせてインフルエンザや食中毒の予防法、また介助法についても図式などで紹介しています。金銭管理については立替え払いをしていますが、支出のあるときは、事前に家族に了解をとり、購入後、定期的に報告しています。苦情箱を設置しています。また、納涼会や面会の時には要望や意見を聞いています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	老健との併設型のグループホームですが、利用者の家族が中心になって、地域との相互理解が構築されています。地域のお祭りや行事に参加し、ボランティアの受け入れをしています。地域の方が犬の餌を持って来て下さったり、流しそうめんに招待して下さったりしています。ホームからボランティアへお手紙を書くなど、関係作りをすすめています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『①皆様の立場に立ち、考え、話し合いを持ち、大切な家族の一員であることをお約束します。②私たちは誠意を持って行動し、努力することをお約束します。③地域・家族・あらゆる関係機関の協力を頂き、皆様のいつまでも安心できる住まいであることをお約束します。』を理念としています。ホーム開設にあたり職員みんなで考えて話し合っ決めて決まりました。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日頃から職員の目につくよう玄関に掲示しています。毎年、法人やグループホームの理念についての勉強会を持ち、各職員に意見を求めて行動指針や向上心につながるものとなるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>介護老人保健施設との併設型グループホームですが、利用者の家族が中心になって、地域との相互理解が構築されています。地域のお祭りや行事に参加し、ボランティアの受け入れもしています。地域の方が、ホームで飼っている犬「マロ」の餌を持って来て下さったり、流しそうめんをするからと招待して下さったりしています。ホームからもボランティアに一筆お手紙を書く等、関係作りをすすめています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については各職員も用紙に書き込み、検討会を開いて、自分たちのこととして意義を理解するよう取り組んでいます。外部評価結果については職員にも報告し、具体的な検討を行い、改善に向けて取り組んでいます。災害時の備蓄については、改善に取り組む現在では確保しています。運営推進会議の開催回数については市との見解の相違もありますが、市と話し合うなど改善に向けての姿勢が見られます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を作成しています。また、家族・地域代表者・地域包括支援センターの担当者が参加し、会議で得た意見を地域とのかかわりやサービス向上に活かせるように努めています。開催の回数は市の見解もあり、年6回の規定を満たしていません。	○	今後は、およそ2ヶ月に1回会議を開催することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは情報交換や疑問に答えてもらうという形で、日頃から交流を図り、市とともに事業の適正な運営やサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ローズマリー通信」を毎月写真入りで発行し、納涼大会の様子や敬老会、また日常の暮らしぶりを家族へ伝えていきます。法人が年3回発行している「フェリスの種」新聞にもグループホームの欄があり、日頃の様子を伝えていきます。季節に合わせインフルエンザや食中毒の予防法、また介助法についても図式などで紹介しています。金銭管理については立替え払いをしていますが、支出のあるときは事前に家族へ了解をとり、購入後は定期的に報告しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しています。また、納涼会などの行事や家族の訪問時には要望や意見を聞き、ケアなどに反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動や離職は最小限に抑えるように努め実現しています。新しい職員が入る時は業務マニュアルを作成し、ホームへスムーズになじめるよう工夫しています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことであり、今後とも異動を最小限に抑えることが期待されます。法人発行の便り「フェリスの種」にて新任職員の紹介をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月併設老健と共同で勉強会を開催しています。「感染症」、「緊急時対応」、「認知症」、「身体拘束」、「虐待」についての講習会も施設内で実施しています。外部研修については個人参加を支援しています。研修に参加した職員は報告書を提出し、伝達研修も行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪狭山市や河内長野市のグループホーム10件で、3ヶ月に1回合同でケース検討会を開催しています。認知症高齢者を抱える家族の会から講師を招いての研修会も開催しています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入して情報を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるよう、ホームで生活リズムをつかめるような支援し、気長に馴染みの関係を作っていけるよう働きかけています。また、自宅や入所施設を訪問して面接の機会を作るほか、本人や家族にホームを見学してもらい、ホームでの生活に納得が得られるよう努めています。入居前には通いや宿泊も可能です。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	新聞広告を見ながら、利用者と共に話題づくりに努めています。編み物の好きな方、生け花の得意な方、料理の上手な方などから職員はいろいろ学んでいます。また、愛犬マロとの触れ合いを通して喜怒哀楽を共にし、支え合う暮らしをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に言葉や表情から利用者の希望や意向を読み取ったり、確認したりして把握に努めています。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から今までの暮らしぶりや思い、希望や趣味、好きな食べ物等の情報を得ています。入居に至るまでの様子については、大阪認知症高齢者グループホーム協議会の方式を採用して記録しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアなど、毎日の申し送り事項は口頭と記録にて職員間で共有しています。ケース会議は毎月開催され介護計画の作成につながっています。利用者や家族の意見も取り入れています。また、アセスメントシートには、利用者の生活歴やライフスタイルが記載されており、利用者が望まれる生活を介護計画に取り入れています。作成した介護計画については、利用者や家族による同意のサインを得ています。職員全員が計画内容を把握しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っています。モニタリングを実施し、家族や利用者の要望を取り入れ、利用者に変化が見られる場合は、その都度介護計画の見直しを行っています。日頃の面会家族との会話から見直しのヒントを得ています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録が整備されており、それらに基づいて介護計画が見直されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の社会福祉協議会からの依頼で、地域の老人会の見学を受け入れています。相談窓口では、併設事業所の利用者家族からグループホームの日常生活が知りたいという要望を受け、説明と見学を実施しました。入浴やレクリエーションについては併設老健の機能を活かし、支援をしています。利用者を孫の結婚式に出席してもらいたいが、職員も同行してほしいという相談があり、実現しました。また家族から健康食品を飲ませたいとの要望を受け、医師と相談の基、食品として許容することになりました。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は週1回、歯科は必要に応じて主治医が往診していますが、希望があれば従来のかかりつけ医の診療が受けられるよう支援体制を整えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の対応については、医師、看護師、介護職員、家族と共に話し合い、意見を確認し方針を決定して支援しています。今までに看取りの機会はありませんが、必要時には家族に説明を行います。またマニュアルの作成も検討中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの際に職員一人ひとりが、プライバシーに関する意識の向上を図るように取り組んでいます。また、日々の介護の場面でも。利用者を尊重した対応を心がけています。利用者の誇りやプライバシーには注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課は決まっていますが、その時々に合わせて食事の時間帯にも余裕を持たせています。朝食にはパン、おにぎり、お粥、ごはん、利用者の好みを優先し、時間もマイペースを尊重し支援しています。気候や利用者の状態に合わせて買い物をしたり、カラオケをしたりと常に臨機応変に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については3食共併設の厨房から調理されたものを運び、盛り付けしています。週2回は利用者と一緒に近隣のスーパーへ食材を買い物に行き、利用者の要望によって献立を決めています。5人の利用者がお皿を並べたり、洗い物や食器拭き、お米を研いだりと出来ることを楽しんで手伝っています。職員も共に同じものを食し、話題を提供して和やかな食事風景になっていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かしています。平均して1週間に3回の入浴支援になっています。入浴時間は概ね午後ですが希望があればいつでも入浴することができます。重度化のため、併設の機械浴に入る方もおられます。毎日入浴したい方の希望も受け入れています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花を生けたり、飼い犬と散歩したり、草花に水をやったりと利用者それぞれの役割を楽しみながらの支援をしています。編み物の得意な方はボランティアと共同でレッグウォーマーを作り、作品として出展し、希望者へは販売も行っており、利用者の張り合いになっています。カラオケや唄の会も楽しんでいきます。家庭での外泊も支援して生活の継続を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時は公園やスーパーに常時出かけています。毎日の飼い犬の散歩や外食にも出かけています。初詣やお花見にも出かける機会を作っています。また、年に1回は1泊旅行を楽しめるように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由に出かけています。散歩や運動にと職員に伝えてから出ています。玄関は併設施設の事務所になっていて、見守りが出来ています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して年2回以上利用者と共に避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て、合同で避難訓練、消化器の使い方などを練習しています。災害用食料や備品については準備しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、施設の管理栄養士のアドバイスを受けてカロリー計算をしたバランスの良い献立です。食事摂取量について毎回確認し、記録をしています。水分摂取量については、毎回食事の折やティータイムの時に水分補給に気をつけ、脱水予防に努め記録しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は広く、共有スペースはゆったりとしています。犬小屋も置かれ、利用者の癒しにつながっています。ソファや畳スペースもあり、毛筆で書かれた利用者の今年の目標が貼られていました。リビングから見える山並みも美しく、四季の移ろいを感じることができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はゆったりとした広さで、洗面所やトイレも設置されています。利用者は自宅から手芸品、椅子、編み物用の毛糸等、思い出の品々を持ち込み、家族との写真や、自分で作った作品を飾っている方もあります。利用者は各自の居室で馴染みの品々に囲まれて、ゆったりと過ごされています。		